

# Safe Volu

(Former First Aid)

静岡県赤十字安全奉仕団機関紙 平成23年12月1日発行

## 平成23年度大道芸ワールドカップにおける救護活動について 報告

11月3日から6日までの4日間に渡り、静岡市で「大道芸ワールドカップ in 静岡 2011」が開催され、静岡県赤十字安全奉仕団と静岡県赤十字看護奉仕団の団員が、救護ブースで体調不良や怪我を負った来場者への応急処置や、会場内の巡回を行いました。

本年は同大会の20周年記念となり、歴代のチャンピオン6組が参加し、世界21カ国からアーティストが集まるなど盛況となり、参加した奉仕団員からは「楽しく活動することができました」との言葉を頂きました。

あいにく雨が降る時間もありましたが、総観客数も173万人と昨年を上回る中、大きな事故や怪我人も出なかったことは幸いでした。

## 大道芸 ワールドカップ 2011 救護ボランティアスタッフとして

最初に自己紹介になります。埼玉県春日部市より静岡県袋井市へ4年前、単身赴任してまいりました。皆様、宜しく願いいたします。こちらでも救急法を生かしたボランティア活動を行いたく、静岡県赤十字安全奉仕団に加入しました。

静岡県で初めての活動が、大道芸ワールドカップの救護スタッフです。3日目に救護ブースの責任者（グループリーダー）を仰せつかり、皆様のお力添えで、大役を無事に勤めさせて頂きました。この紙面をお借りしお礼申し上げます。やはり、皆様と目的が同じですから、他県から来た私でも、色々なお話しが出来た事や、多くの仲間が出来た事は、嬉しい限りです。

一度、救急車を要請しましたが、傷病者の方は、無事に回復されたと伺い、安心しました。また、チェコの方がブースを訪れ、少々苦痛の顔をされておられ、対応させて頂きました。お互いに英語と言う、母国語以外での会話でしたが、薬の名前を言われ、足が痛く湿布等で対応出来ないですかと言う内容でしたので、看護奉仕団の方に湿布を貼付対処して頂き少々休んでもらいました。笑顔で挨拶をされ、ブースを後にされた時は、「人種、国境、宗教を超え苦痛を予防し軽減する」その行為に何の理由も必要なく、赤十字の人道的な目的と考えさせられた場面でした。その後、特に大きな問題も無く、大道芸ワールドカップの4日間を終えることとなりました。

また、統括の実行委員をされておられた、後藤さん、柴田さん、本当にお疲れだったと存じます。静岡県支部の皆様、また、ボランティアスタッフの皆様、お疲れ様でした。静岡県に赴任し皆様にお会い出来た事は、私にとって、大切な宝です。講習会、トレーニング、救護活動でお会いしましたら、お声掛け頂ければ幸いです。また、来年も皆様にお会い出来る事を楽しみにしております。

報告者：赤十字安全奉仕団 倉知 拓也